

グループホーム

調理する喜び



私の仕事は、グループホームの世話人です。「おはようございます」と玄関の戸を開けると、入居者が笑顔で待っておられます。そして「昨日は、お仕事が早く終わって、みんなでパン屋さんに行ったよ」などと、食器をテーブルに並べる手伝いをしながら話をされます。「今朝のおかず、何を作って食べてもらおうか」と考えながら耳を傾け皆さんの話を聴いています。時には、入浴の順番などから入居者同士のトラブルになることがあります。そんな時は、一人ひとりと向き合いながら、話をしっかり聴くようにしています。その繰り返しの中で、入居者と世話人の信頼関係が出来るのだと思っています。

食事作りや掃除など目に見える仕事は当然ですが、皆さんの苦手な事に少しでも寄り添い、同じ目線になって想いを理解し受容しないといけないと思います。

そして、調理する世話人として一番大切な事は、皆さんに楽しく食事をしてもらうことです。「おいしいよ」との声に「ありがとうございます」と応えるたびに、調理をする楽しさを感じます。入居者一人ひとりのニーズに応えられていないこともあります、調理をさせてもらっていることに感謝し、皆さんに楽しくおいしく食事を摂って頂けるように続けられる限り頑張っています。

世話人 石井 フミエ



節分



女子会バレンタイン



民生・児童委員さんとの交流会



とんど

行事だより

※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。



広島県共同募金会より、平成26年度NHK歳末たすけあい助成金の交付を受け、軽自動車を整備しました。利用者の送迎や外出に、長く大切に使用させていただきます。

ありがとうございました。

後見人の立場から



利用者Kさんと 後見人 上田 美幸さん

私が、成年後見人として西の池学園に訪問するようになり2年が過ぎました。笑顔で挨拶をして下さる職員が、入所の方を家族同様に思い、共に生きている姿に感謝しています。

成年後見人は、本人の代弁者としての立場から職員の配慮、環境面と施設側を厳しく評価する場面があります。その為、施設によっては、外部からの意見者として後見人制度を敬遠しがちです。その中で、西の池学園は20代で入所された方が施設の歴史と共に高齢化が進み、今までお世話をされていたご家族様も生活環境の変化に伴い、関わりが難しくなっている現状があります。入所されている方の権利擁護を維持する為に、第三者機関での入所者の意見を聞き、その人らしく生きていける個別性を重視した環境創りをされています。

成年後見人を積極的に導入されることは、開かれた施設を目指した施設姿勢だと感じます。今後も、風通しの良さを感じられる施設であることを願っています。

「本人主体」ということ

相談員として



相談支援センターこだま 浅野 正道

この4月から、相談員として相談支援センターこだまに配属となりました浅野正道です。3月までの5年間、東広島市障害者相談支援センターはあとふるで、広く市民の方からご相談をお受けしていました。ご相談内容は様々ですが、「困った」「何とかしたい」、という思いを伺い、一緒に考え、その思いを整理し、願いを叶えるお手伝いをできるように心がけることを学びました。ご本人の思いを第三者が見ると「こうすればいいのに…」と簡単に考えてしまいますが、それでは解決に向かわず、また「困った」が繰り返されることとなります。自分では気付いていない、言葉にならない思いと一緒に解きほぐして、目標（希望）を言葉にし、その目標に向けてみんなで支援することで、初めて解決に向かい始めるのだと思います。自分の思いを上手く伝えることが難しい方たちの生活を、他人が勝手に決めてしまうことがないよう、ご本人の思いが実現するために少しでもお力になればと思っています。

障害者総合支援法では、意思決定支援を行っていくことが示されています。様々な面で、ご本人が主体となる生活が保障される制度が整い始めた中、本人主体の支援を心がけていきたいと思っています。